

全国約 700 の幼稚園、保育園が漢字教育を実践

こうした石井式による幼児からの漢字教育は、昭和 42 年、大阪の小路幼稚園をはじめとする数園で取り組みがはじまったのを皮切りに、現在では、北は北海道から南は沖縄まで全国およそ 700 の幼稚園、保育園で実践されるまでになっています。

これらの園では、すべての持ち物に最初から漢字で名前を表記したり、実物の時計や黒板の脇に「時計」「黒板」と漢字で書かれた紙を貼ったりするなど、入園当初から漢字が自然に子どもたちの目に触れるように配慮されています。

机や椅子が幼児用であることを除けば、小学校の中・高学年の教室と言ってもおかしくない雰囲気なのです。はじめて見学に来た方は、まずそのことに驚かれるようですが、幼児には大人のように「漢字は難しいもの」という先入観はまるでありません。しかも、くり返し述べてきたように、ひらがなより漢字のほうがずっと覚えやすいので、自分の名前や身のまわりの物の名前の漢字は、何度か見ただけで、すぐに頭に入ってしまう、一ヶ月もするとほとんどの友達の名前も、自然に漢字で読めるようになっていきます。

また、漢字カードや漢字の絵本、かるたといった教材も、遊びやゲームの中で無理なく反復できるようになっていますので、子どもたちは皆、楽しみながら一年間に 300～500 字の漢字を覚え、年長になる頃には漢字かな交じりの絵本をひとりですらすら読むことさえできるようになるのです。

残念なことに、教育関係者の中にはいまだに「幼児のうちから漢字を学習する」と聞いただけで「詰め込みはいけない。幼児期には、まず情操教育やしつけを行うべきだ」と非難する人がいます。しかし、わずか八ヶ月の赤ん坊でも漢字に強い関心を示すことからわかるように、子どもは生まれながらにして漢字が大好きなのです。ですから、与える方法さえ間違わなければ、幼児たちにとって漢字は格好の遊び道具であり、その楽しみを知った子どもたちは旺盛な知的好奇心を発揮して、海綿が水を吸い取るように、ひとりでにどんと新しい漢字を吸収していくようになるのです。

そしてまた、私かこれまで実践してきたような方法で、楽しみながら漢字を身につけた幼児たちは、考える力が伸びるだけでなく、幼稚園や保育園で先生の話にきちんと集中することを覚え、感受性や表現力も、漢字を知らない子どもたち以上に豊かに育っていきます。そのことは、2 章にまとめた石井式漢字教育を実践する現場の先生方やお母さん方の声からも、おわかりいただけることと思います。